

# 労働図書館新着情報

今月の10冊(日本十進分類[NDC]順に掲載)

<p>①下村恭民他編著『貧困問題とは何であるか』勁草書房(viii+286頁,B6判) 複雑な構造をもつ貧困に経済学、政治学、人類学等から接近するとともに、貧困を捉える視角と開発学への道程をも示している。本書の特徴は、途上国社会に埋め込まれている「問題解決の仕組み」を活用して、貧困脱却アプローチを提案していることである。統計研究会での「貧困の学際的研究会」の6年間の検討の成果。</p>	<p>⑥石川晃弘著『体制転換の社会学的研究』有斐閣(xi+225頁,A5判) チェコ・スロバキアから始められた研究がブラハの春以降、ポーランド、ハンガリーへ転換、これら4か国の体制崩壊過程を企業と職場の中間レベルから追究。1980年代末にまとめられていた研究論文が時代の急展開でお蔵入り、旧体制崩壊20年を期に旧稿を大幅に改訂、崩壊前後10年間を扱ったものとして目の目をみだ。</p>
<p>②時井聡他編著『現代の企業組織と人間』学文社(viii+206頁,A5判) 大学生の就業前教育プログラムとして研究者と企業実務家によって実施されたオムニバス形式の講義の成果。第1部概説編は、新規卒業者が働き始めるにあたって必要な働く目的や雇用システム、人材評価などの知識を付与することを目的とし、第2部では、各企業の人材の採用方法や人的資源管理の実態が紹介されている。</p>	<p>⑦労働運動研究会編『連合運動』えるむ社(419頁,B6判) 英米独仏の労働運動を紹介するとともに、連合結成からの20年間の運動を歴史的に検証、課題と展望を明らかにすることを目的としている。規制緩和や労働者保護法制の見直し等に対し、労働運動の反転攻勢を目指している。格差の拡大、雇用情勢の悪化に対し、支援政党である民主党政権下での労働運動への期待は大きい。</p>
<p>③大藪毅著『長期雇用制組織の研究』中央経済社(3+10+261頁,A5判) 日本人の「働き方」との関係において、「人の扱い方」=人材マネジメントを社会学、心理学、認知科学等の援用と公式承認・柔軟貸借等の独自のモデルにより理論化を試みている。人事・雇用システムに関する議論への理論的ベースの提供を狙っているからである。理論編-インプリケーション編-事例編の3部で構成。</p>	<p>⑧渡辺めぐみ著『農業労働とジェンダー』有信堂高文社(212+5頁,A5判) 環境、介護と並んで、労働の場としての農業が注目され、農産物直売場等の女性起業家にも関心が集まっている。本書はインタビュー調査によって、家父長制は男女格差の源泉というグランドセオリーを専業農家というミクロの視点からの解明を指向している。専業農家の娘という自らの立ち位置も明かしている珍しい書である。</p>
<p>④樋口美雄他編『労働市場の高質化と就業行動』慶應義塾大学出版会(x+273頁,A5判) 慶大一大連携グローバルCOEプログラム「高質な市場を形成するための市場インフラの総合的検討」の成果。「日本の家計行動のダイナミクス」シリーズの第V巻。2004年~08年に実施された5回の慶應義塾家計パネル調査のデータを基に、労働供給、賃金、民間職業紹介等の「労働市場の質」の経年変化が検証されている。</p>	<p>⑨道中隆著『生活保護と日本型ワーキングプア』ミネルヴァ書房(xi+199頁,A5判) 貧困問題の最終的セーフティネットとしての生活保護制度の重要性が増している。行政の立場にいた著者は、ホームレスや母子世帯等要保護世帯を対象とした4つの生活実態調査から、最終学歴の低位性、固定化、世代間継承等の貧困の様相を抽出し、議論の一層の深化と貧困を社会的課題として捉え直すことを求めている。</p>
<p>⑤八代尚宏著『労働市場改革の経済学』東洋経済新報社(xii+272頁,B6判) 急進的規制緩和論者と目されている著者は、日本の労働市場問題の根幹は正社員・非正社員間の労対立であると説き、同一労働・同一賃金、非正社員の雇用安定を追求している。長期経済停滞下での慢性的失業、頻繁な転勤をも問題視し、公平で流動性の高い労働市場の形成を目指している真っ当な政策提言の書である。</p>	<p>⑩池田功他著『「職業」の発見』世界思想社(viii+290+11頁,B6判) 職業は、共同体の一員として必ず仕事であると同時に、自分の生活維持のための仕事という意味も持つ。本書は近現代の著名な小説家等17人の先人が、天職と呼べる職業をどのように発見したかを紹介。天職に就くことのできる人がどの位いるのか不明だが、先人の経験は、我ら凡人の職業発見の参考になるだろうか。</p>

## 主な受け入れ図書

(2009年11—12月労働図書館受入れ)

①大阪社会労働運動史編集委員会編『大阪社会労働運動史 第9巻』大阪社会労働協会(xxiv+733+21頁,B5判)	③渡辺雅雄他編『中国の格差、日本の経済』彩流社(292頁,A5判)
②川人博著『テキストブック 現代の人権』日本評論社(vi+232頁,A5判)	④権文善一著『社会保障の政策転換』慶應義塾大学出版会(xix+312頁,B6判)
③内閣府大臣官房政府広報室編『外交に関する世論調査』内閣府大臣官房政府広報室(223頁,A4判)	⑤石田光男他編著『労働市場・労使関係・労働法』明石書店(248頁,A5判)
④伊藤元重編『国際環境の変化と日本経済』慶應義塾大学出版会(xxiv+403頁,A5判)	⑥NHK「あすの日本」プロジェクト他編『「35歳」を救え』阪急コミュニケーションズ(301頁,B6判)
⑤池尾和人編『不良債権と金融危機』慶應義塾大学出版会(xxv+458頁,A5判)	⑦土田道夫他著『ウオッチング労働法』有斐閣(xii+458頁,A5判)
⑥池田信夫著『希望を捨てる勇気』ダイヤモンド社(xiii+243頁,B6判)	⑧戴秋娟著『中国の労働事情』社会経済生産性本部生産性労働情報センター(vi+88頁,A5判)
⑦アジア法文化研究班著『アジアの法文化の諸相』関西大学法学研究所(242頁,A5判)	⑨井上修一著『労働条件保護法の展開』見洋書房(vii+223+4頁,A5判)
⑧富士谷あつ子他編著『日本・ドイツ・イタリア超少子高齢社会からの脱却』明石書店(252頁,A5判)	⑩日本紙ハルブ紙加工産業労働組合連合会編『2009年度労働条件実態調査』紙ハ連合(275頁,A4判)
⑨日本経営学会編『日本企業のイノベーション』千倉書房(2+11+282頁,A5判)	⑪全日本金属情報機器労働組合編著『わたしたちと労働組合』学習の友社(78頁,A5判)
⑩共生型経済推進フォーラム編『誰も切らない、分けない経済』同時代社(274頁,A5判)	⑫岩崎馨著『日本の労働組合』日本生産性本部生産性労働情報センター(ii+88頁,A5判)
⑪上野佳恵著『情報調査力のプロフェッショナル』ダイヤモンド社(viii+227頁,B6判)	⑬佐藤博樹他著『派遣という働き方を通じたキャリア形成』東京大学社会科学研究所(207頁,B5判)
⑫木村琢磨著『雇用の境界に関する理論的・実証的研究』東京大学社会科学研究所(227頁,B5判)	⑭池森憲一著『出稼ぎ派遣工場』社会批評社(239頁,B6判)
⑬川喜多喬著『人材育成とキャリアデザイン支援』労働新聞社(253頁,B6判)	⑮白樫三四郎編『産業・組織心理学への招待』有斐閣(ix+242頁,A5判)
⑭高谷知佐子編『M&Aの労務ガイドブック』中央経済社(4+7+244頁,A5判)	⑯天野正子他編『権力と労働』岩波書店(xv+321頁,B6判)
⑮坂本光司著『なぜこの会社はモチベーションが高いのか』商業界(213頁,A5判)	⑰内閣府大臣官房政府広報室編『男女共同参画社会に関する世論調査』内閣府大臣官房政府広報室(265頁,A4判)
⑯有吉実著『ストレス社会の人間学』日刊工業新聞社(170頁,B6判)	⑱安西愈著『介護労働者の雇用管理総論』介護労働安定センター(4+253頁,A4判)
⑰南條善治他著『年齢0~100歳の生存率におけるBrass logitモデルと...』日本大学人口研究所(21頁,B5判)	⑲寺田盛紀著『日本の職業教育』見洋書房(vi+205頁,A5判)
⑱日本財政学会編『少子高齢化社会の財政システム』有斐閣(ix+386頁,A5判)	⑳花香実著『教育学雑録』大空社(282頁,A5判)
⑲総務省統計局編『日本統計年鑑 第59回』総務省統計局(xxix+942頁,B5判)	㉑日通総合研究所編『2009-2010年度の経済と貨物輸送の見通し』日通総合研究所(29頁,A4判)
⑳金子郁容他編著『コミュニティ科学』勁草書房(x+226頁,A5判)	㉒内閣府大臣官房政府広報室編『体力・スポーツに関する世論調査』内閣府大臣官房政府広報室(224頁,A4判)

### 労働図書館(資料センター)

当図書館は、社会科学関係書を中心に和書105,000冊、洋書26,000冊、和洋の製本雑誌20,000冊を所蔵している労働関係の専門図書館です。

労働関係の分野には、労働法、労働経済、労働運動、雇用職業、女性労働、パート派遣、高齢者労働、障害者労働、外国人労働、社会福祉などがあり、これらで、蔵書の半数以上を占めています。その他にも、経済書をはじめ経営学、心理学、教育学、社会学など関係分野に及んでいます。また、和雑誌(460種)、洋雑誌(170種)、紀要(560種)、組合機関誌・紙を受け入れています。

特色としては、厚生労働省をはじめとする官公庁発行の統計類などの逐次刊行物、日本経団連など経営者団体の刊行物や民間研究機関刊行物、社史があり、労働組合に関しては、労働運動史、ナショナルセンターや産業別組合の大会資料などを継続的に収集しています。洋書については、特にILO(国際労働機関)総会の議事録やOECD(経済協力開発機構)の刊行物、各国政府の労働統計書などを収集して閲覧に供しています。特殊コレクションとしては、戦前・戦後を通して労働組合の歴史的に貴重な原資料を収集、保管しています。

開館時間：9:30～17:00

休館日：土曜日、日曜日、国民の祝日、年末年始(12月28日～1月4日)、その他

電話番号：03(5991)5032 / FAX：03(5991)5659

利用資格：どなたでも自由に利用できます

貸出：和書・洋書とも2週間、5冊までです

※身分証明書(運転免許証、健康保険証など)をお持ちください

レファレンスサービス：図書資料の所在調査などのサービスを行っています